

新年のごあいさつ



新たなステージ「未来の下野市」の創造に向けて

下野市長 広瀬 寿雄

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、健やかに平成20年の新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。下野市も合併から3年目を迎えますが、ここに来てようやく一つのまちとしての一体感が高まり、市として本格的に機能しはじめていることを実感しております。

私は、新たなステージ「未来の下野市」の創造に向け、市民の皆様との協働による自立した行政運営を構築し、行政評価を活用した、サービスの量から質への転換を図りながら、郷土「下野市」の一層の躍進を期してまいりたいと決意を新たにしているところであります。

昨年は、下野市も合併2年目であり、今後8年間の下野市の柱となります。「下野市総合計画」を策定する年でもありました。今後はこの総合計画をしっかりと受け止め、掲げられている各施策を着実に実行することが大切であると思っております。

今年は、まちづくりの観点からも、下野市の方向性を示す大変重要な年として位置づけをい新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、健康で希望に満ちた新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、市政の進展並びに市議会の活動等に対し、皆様方の深いご理解とご協力を賜りまして、円滑な議会運営ができましたことを心から感謝し、改めて厚くお礼を申し上げます。

昨年は、年金問題での行政に対する国民の不信感からはじまり、新潟県中越沖地震の災害、食品の産地や消費・賞味期限の偽装・改ざんが年の瀬まで多く報じられ、消費者・市民の皆様にとっては不安な思いが続いた1年だったのではないでしょうか。

また、地域経済では依然として景気回復が実感できない状況が続いており、中央と地方、大企業と中小企業の格差が問題となっているところであります。

こうした中、下野市におきましては、20年度より市の将来像である『思いやりと交流で創る新生文化都市』の実現に向けた今後八年間の目標や施策を定めた、下野市総合計画（基本計画）がスタートします。

たしております。市民の皆様が、今、何を望んでおられるのか、本当に住んで良かった、住んでいることを誇りに思える、そのような下野市のまちづくりを目指し邁進してまいります。公務員の資質向上が求められる中、職員一同を引き締めて、市民の皆様とともに歩みを一歩ずつ進めていく所存でありますので、元気のある下野市づくりにご協力をお願い申し上げます。

地方財政は年々厳しさを増しており、本市においても、集中改革プランに基づいた果敢な改革を続行していかなければならないと考えております。また、男女共同参画行動計画に基づき「みんなが輝き支え合うまち」をめざして、男女共同参画社会の実現にも努めてまいります。

知恵と情熱を発揮し、創意と工夫をもって市政の発展に全力で取り組んでまいれる所存でありますので、市民の皆様の益々のご理解とご協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、この1年が市民の皆様にとりまして、健康で幸多き年となりますことを心からお祈り申しあげ、新年のごあいさつとさせていただきます。

将来都市像の実現に向かい、計画的な行政運営が推進されることとなりますが、本市においても、厳しい財政状況が続いており、より一層の行財政改革に努め、効果的な財政運営が必要となっており、予算に対する議会の監視機能の重要性が問われます。

地方分権が推進される中で、今後一層各地方自治体の独自性が問われ、議会の果たす役割は益々大きくなると感じております。

単に行政のチェック機能としてだけではなく、議会と行政が真の両輪となるよう、また、住民自治の代表機関として、少子・高齢化対策、環境問題、行財政改革などの様々な課題に、市民の皆様のご意見・ご要望が反映できますよう、最大限の努力をしまいる所存であります。

今年の十二支は「ねずみ」となりますが、「子」とも書き、増えるを意味するとの説があり、出生率が上昇するよう明るい1年となりますよう願っております。

結びに、皆様のご健勝とご繁栄を心から祈念申し上げますとともに、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



初春を迎えて

下野市議会議長 大島 将良